

運行経費と運賃改定について

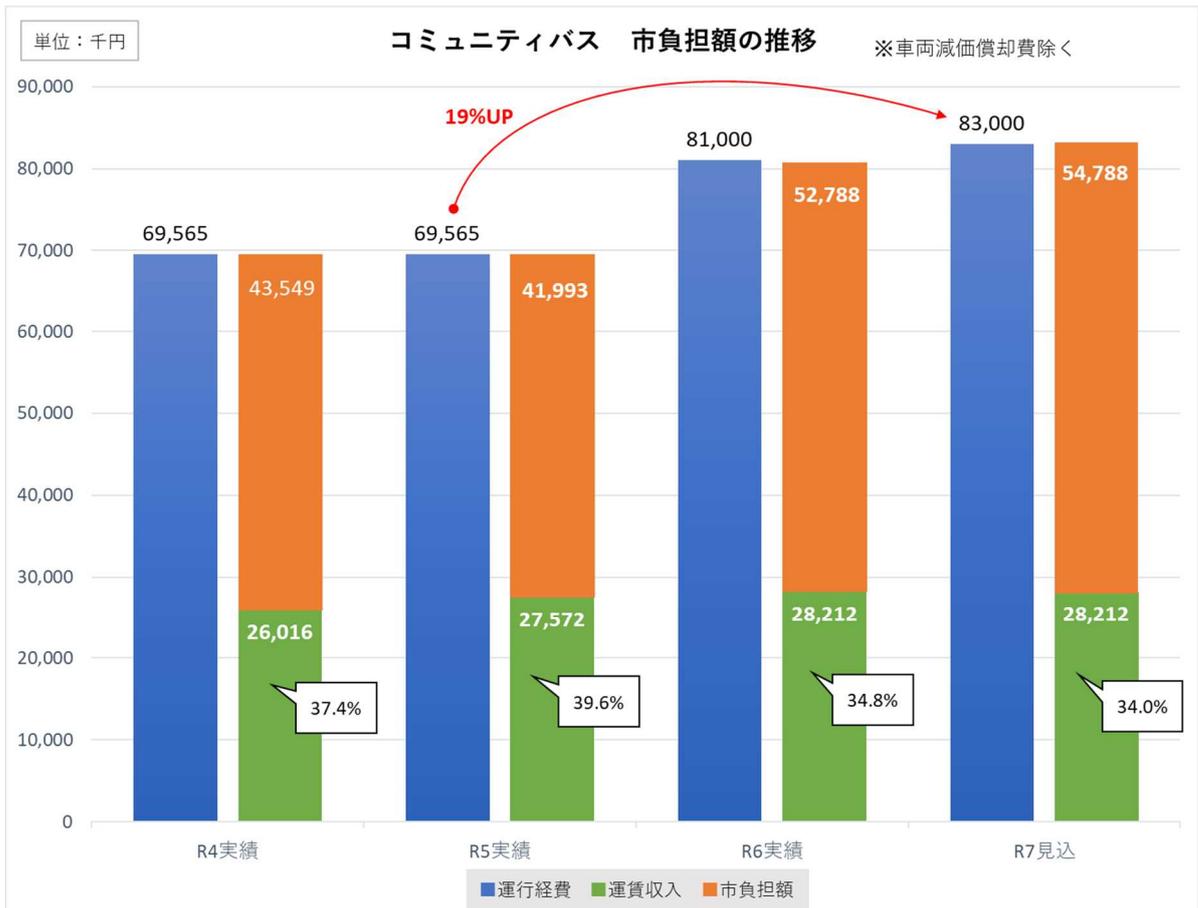
① 公共交通を取り巻く状況

- 運転手不足に対応するための運転手の待遇改善や燃料費の高騰などにより、本市が運行主体となるコミュニティバスや、運行経費の一部を本市が負担する近鉄バス「阪奈生駒線」の費用が増加している。
- 東部地域乗合タクシーや南部地域コミュニティバスにおいても、運行経費算出のベースとなる運輸局が定める運賃（公定幅運賃）の上昇が見られる。
- 近鉄バスの営業路線では、すでに運賃改定（値上げ）が行われており、その他の民間運行事業者の運賃改定も行われている。

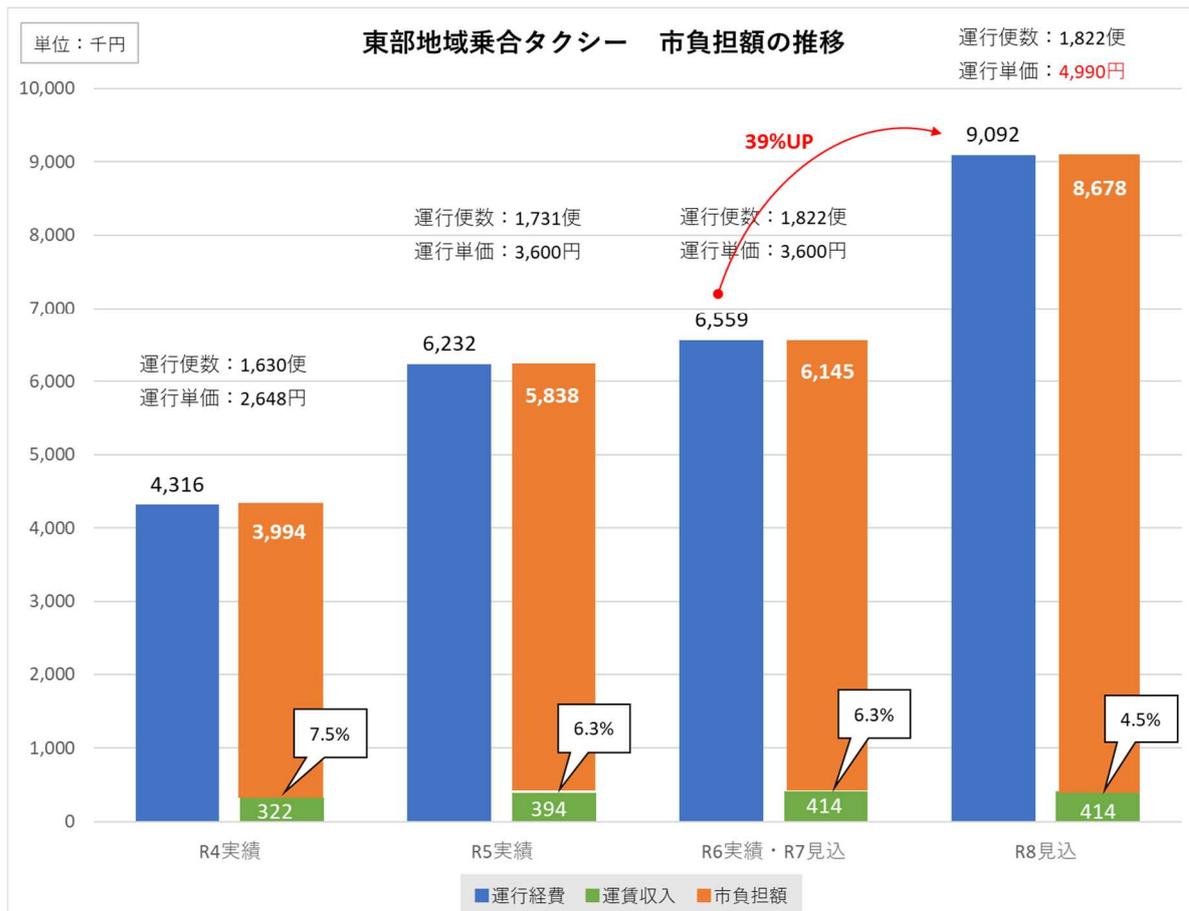
② 市負担額の推移（単位：千円） ■ 運行経費 ■ 運賃収入 ■ 市負担額

公共交通に対する市の負担額の推移は、それぞれ以下のとおりです。将来予測については、コミュニティバスの令和7年度予算に対する収入は、令和6年度と同額としています。東部地域乗合タクシー及び南部地域コミュニティバスは現在、令和8年度からの運行事業者の選定中ですが、運行経費は予定額（運行事業者募集要領に示している運行単価の上限額）とし、収入は6年度実績により試算しています。

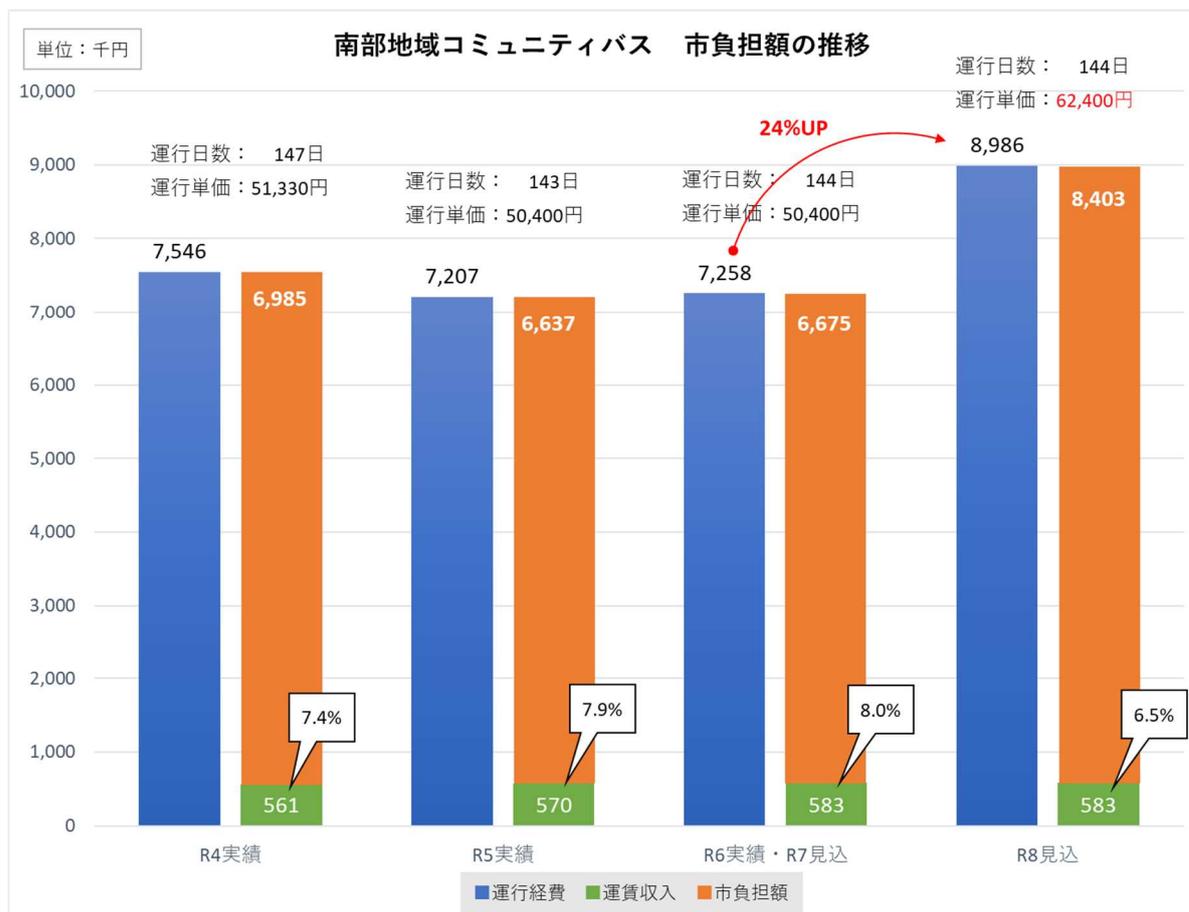
● コミュニティバス ※車両減価償却費は除く



●東部地域乗合タクシー



●南部地域コミュニティバス

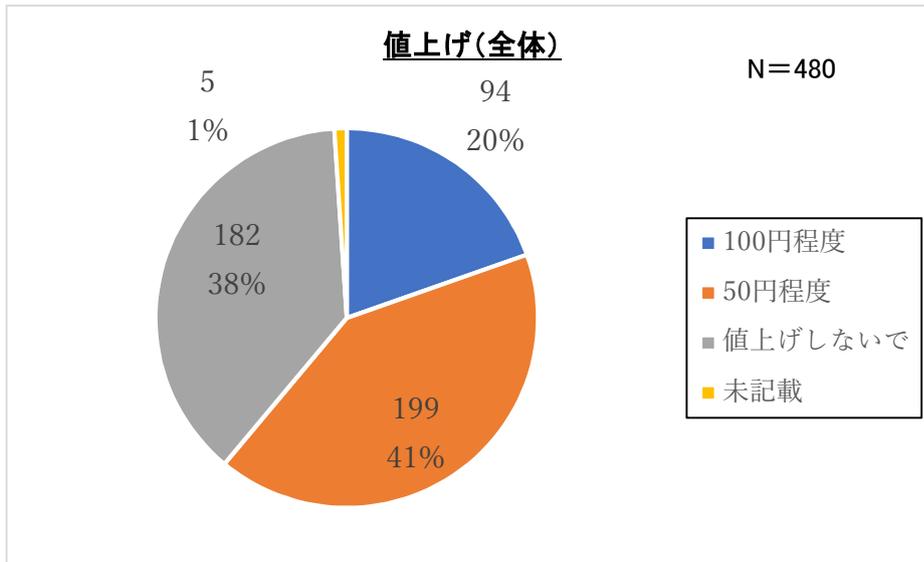


③ 利用者アンケート

運賃改定（値上げ）を検討するにあたり、公共交通利用者等に対し運賃値上げについてアンケートや聞き取り調査を実施しました。

●コミュニティバス

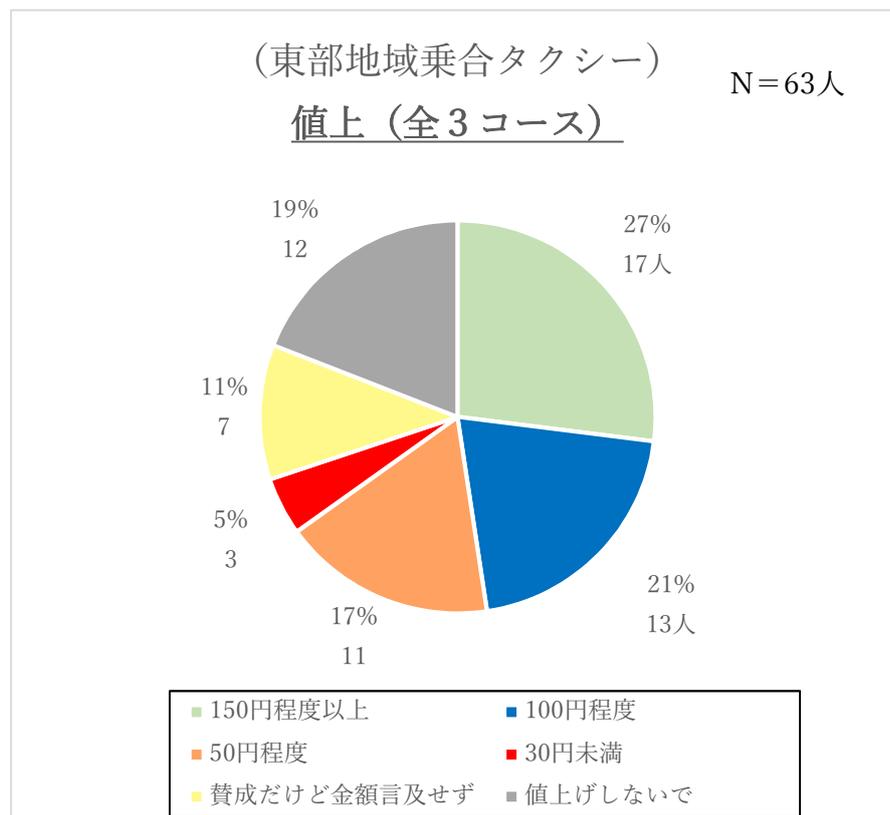
令和6年9月から10月にかけての3日間、全コース全便に乗り込み、乗客にアンケート調査を実施しました。



対象：480人
 賛成：293人(61%)
 反対：182人(38%)
 未記入：5人(1%)

●東部地域乗合タクシー

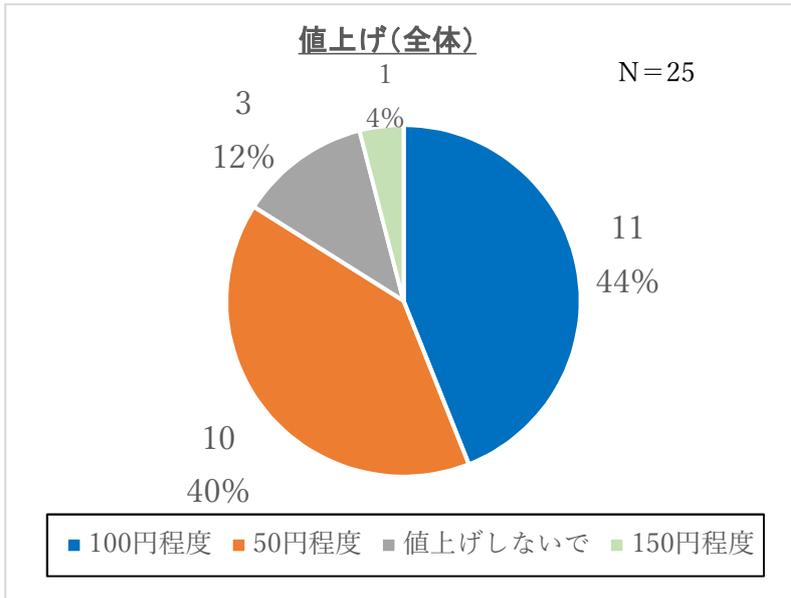
乗客リストをもとに、令和6年10月から令和7年4月にかけて、利用者に電話による聞き取り調査を実施しました。



対象：63人
 賛成：51人(81%)
 反対：12人(19%)

●南部地域コミュニティバス

令和7年3月に1日、全コース全便に乗り込み、乗客にアンケート調査を実施しました。

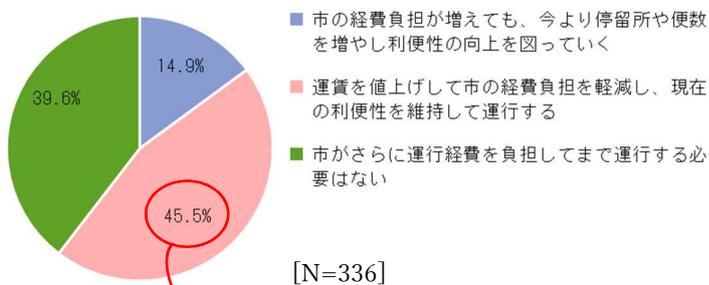


対象：25人
賛成：22人(88%)
反対：3人(12%)

●高齢者への聞き取り調査

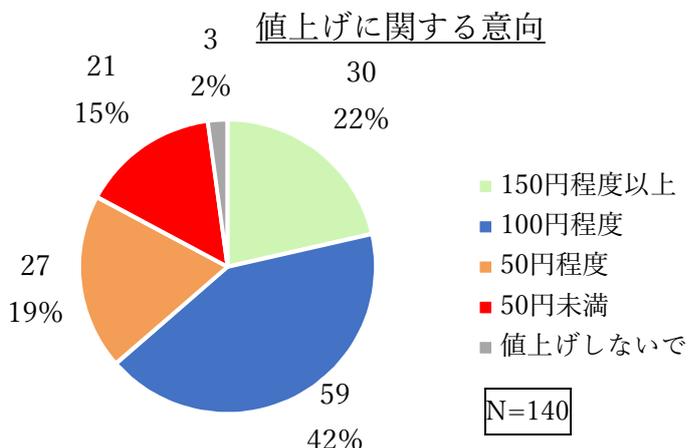
令和6年10月から令和7年2月にかけて、市内の食品系スーパー16店舗で来店者（主に高齢者）に聞き取り調査を行いました。

[運行経費のあり方について]



	回答数	割合
1 市の経費負担が増えても、今より停留所や便数を増やし利便性の向上を図っていく	50	13.6
2 運賃を値上げして市の経費負担を軽減し、現在の利便性を維持して運行する	153	41.7
3 市がさらに運行経費を負担してまで運行する必要はない	133	36.2
無回答	31	8.4
合計	367	100.0

※グラフに表示する%は「無回答」を除いたもの [N=367]



値上げに関する意向	人数	割合
150円程度以上	30	22%
100円程度	59	42%
50円程度	27	19%
50円未満	21	15%
値上げしないで	3	2%

※「わからない」3、「その他」1、「無回答」9(計13名)を除く

④ 運賃改定について

コミュニティバスの運行経費は令和5年度から7年度で約1,344万円(19%)アップ、令和8年度から東部地域乗合タクシーが約253万円(39%)、南部地域コミュニティバスが約173万円(24%)のアップとなる予定です。

本市の実施する公共交通を維持・継続していくため、市の負担額抑制や受益者負担の観点、利用者等のアンケート結果も踏まえ、運賃の値上げについてはコミュニティバスを40円、東部地域乗合タクシー及び南部地域コミュニティバスは50円から100円程度、近鉄バス「阪奈生駒線(住道駅前～竜間、生駒登山口)」は40円程度で検討しています。